



University of Lapland

2024 Autumn Semester

融合理工学府デザインコース 修士1年

STUDY

勉 学 に つ い て

ラップランド大学では授業が不規則に行われます。日本のように毎週同じ曜日・時間に同じ授業が行われるわけではないので、ある週は4日授業があるけど次の週は1日しか授業がないということがよくあります。各授業の始まるタイミングも違うので、私は7つの授業を履修していますが、今のところまだ4つの授業しか始まっていません。不規則ではありますが、Tuudo というアプリで授業のスケジュールや教室の位置などを確認でき、わからないことも先生に聞けばちゃんと教えてくれるので、特に不便を感じることはありません。

他にも、授業が必ず15分遅れてスタートする点の特徴です。例えば、9:00の授業だと9:15から授業が始まるので、9:00前に教室に行く必要はありません（もちろん授業開始に遅れないように早めに到着する方が良いです）。また、私が履修している授業はだいたい4時間から6時間とすごく長いですが、途中で何度か10分間ほどの休憩や1時間ほどのランチ休憩が取られます。先生もフレンドリーな方が多く、休憩中に会話に混ざってきたりしてすごく話しやすいです。

基本的に交換留学生用の英語の授業を履修することになりますが、フィンランド人の学生も履修していることがあるので、授業内で現地の学生と交流することができています。



キャンパスにある、
ハンドメイドのカバーがかけられたソファ

Safety in Art and Design Studies (1credits)

アート・デザイン学部での学習を安全に行うため、工房内の機械の使い方や有毒な素材の取り扱い方などについて理解するための授業です。講義1回とキャンパス案内1回の2回だけ学校に行き、その後はMoodleで合格点に達するまでテストを受けます。授業の評価は、全てのテストを完了したかどうかをもとに、合格・不合格のどちらかを与えられます。交換留学生は半分ほどしかこの授業をとっておらず、修士や博士の留学生が多い印象でしたが、普段なかなか交流する機会がない学生たちと話すことができる貴重な機会でした。

Furniture Design Models (5credits)

フィンランドの家具デザイナーとそのデザイナーのプロダクトを1つ選び、それらのデザイン理念を反映させた新たな家具をデザインし、モデルを制作する授業です。まだ2回しか授業を受けていませんが、工房の使い方を学ぶ目的として木材でバターナイフを作りました。月末に選んだデザイナーとプロダクトについて1人10分のプレゼンをするので、今はその準備をしています。素材は木材を始め、鉄やプラスチック、布など学校で扱えるものであれば良いが、3Dプリンターなど自分自身の手を動かさずに制作するのはダメとのことでした。また、作ったモデルは最終的に大学に提出して飾られることになるので、時間に余裕があれば2つ同じモデルを制作して片方を日本に持ち帰れるようにしようかなと考えています。



Introduction to Arctic Cultures (5credits)

特にアートやデザインの観点から北極圏の文化について学ぶ講義です。今のところ毎回先生が代わり、それぞれの先生の専門分野についての説明をしてくれています。2つ以上の展示を見に行き、授業で学んだこととその他書籍等をもとにレポートを書くことで評価を受ける、座学型の授業です。

Product Design 3D Surface Modelling (5credits)

3D モデリングソフトである Rhinoceros の使い方を、初歩的なところから丁寧に学ぶ授業です。基本的な使い方から学び、作業量が多いため、他の授業と比べると授業数がかかなり多い印象です。私は日本にいる時に、Rhino を使えるようになりたいと思いつつずっと怠けていたので理想的な授業ですが、すでにマスターしてる人にとっては簡単すぎるかなと思います。「普段 Rhino 使うけどもっと早く綺麗にモデリングする方法を学びたい」、と言ってこの授業を受けている友人が、今の所特に新しく知ったことはないと言っていました。ただ、先生がこまめに教室内を歩いて、困っている人に丁寧に教えてくれるので、初心者にとっては確実に使い方を習得できる良い授業だと思います。最終課題では1人1つ既存のプロダクトを選んでリデザインし、その3Dモデルとプロモーションイメージを作ります。思っていたよりも Rhino の操作は複雑でないので、みんな楽しみながら授業を受けている印象です。



Arctic Inspiration (3credits)

Sustainability as interdisciplinary competence (5credits)

Industrial Design Advanced Project/ Interaction Design (10credits)

これら3つの授業はまだ始まっていないので、留学後の報告書で紹介したいと思います。



LIFE

生活について

寮は家具付きのシェアルームなので、ベッドやテーブル、椅子などの大きな家具はもともとついていましたが、枕、掛け布団、食器類など細々したものは自分で調達する必要があります。1年前に交換留学で千葉大学に行っていて、私がチューターをしていた学生たちが一緒に寮の部屋まで来てくれ、必要なものを調達するためにショッピングセンターへも連れていってくれました。どこで買うと安いかわせてくれたり、これは貸してあげるから買う必要ないよと言って色々なものを持ってきてくれたりしたので、思っていたほどお金を使わずに必要なものをそろえることができました。到着早々スムーズに生活を始めるためにたくさん手助けしてくれ、今も色々な場面で常にサポートをしてくれている彼女たちのために、どうやって恩返しをしてあげられるか計画中です。

私は、ポーランド人とスペイン人の交換留学生2人と寮生活を送っています。2人ともすごく良い人で何も問題なく生活できています。ポーランド人の方はすごく料理が上手で、生地から全て手作りのピザやカップケーキを作って分けてくれます。スペイン人の方もすごく気さくで、部屋の中だけでなくパブやイベントなど、外で会ったときも話したりしています。寮生活で一番気をつけるべきことは、鍵を部屋の中に忘れないことです。部屋の扉はオートロックなので、鍵を持たずに閉めてしまうと鍵を開けるサービスを呼ばないといけず、私は27ユーロで開けてもらいました。9月から50ユーロに値上げされたと聞いたので、より一層気をつけないといけません、、、



寮の部屋に集まってピザを作る様子



ロヴァーニエミ到着時にいただいたフィンランド堪能セット

ロヴァニエミは広大な面積を持つヨーロッパ最大級の都市ですが、人口が少なく生活圏として発達しているエリアも狭い、小さな都市でもあります。そのため、大抵の場所へは歩いていけるし、どこかへ出かけると知り合いによく遭遇します。

休日は、友人たちと一緒に laavu という無料の焚火場に行ってソーセージを焼いたり、パブに行ってゆっくり話したり、オーロラを見に行ったりすることが多いです。オーロラは、空が曇っていなければほぼ毎日くらいで見ることができ、びっくりしています。小さな都市でやることが限られている分、お酒を飲む機会が多いですが、フィンランドではお酒の値段が信じられないくらい高いので出費には気をつけないといけません。ちなみに、スーパーでは朝の9時から夜の9時までの間でしかアルコールを販売してはいけないと決められているそうです。

休日を1人で過ごしたい時は、リサイクルショップに行ったり、ハイキングに行って気分をリフレッシュしたりすることが多いです。フィンランドの森にはたくさんのキノコが生えているので見るだけでも面白いです。ベリー類はもちろん、天然の湧水もみつけることができるので、味覚で自然を楽しむのも Rovaniemi の醍醐味かなと思います。



誕生日パーティーの様子



オーロラを見に行った際の様子

最近は、急速に冬が近づいているのを感じます。
私がロヴァニエミに到着した頃は、夜の12時や1時でも外が明るかったのですが、今は9時ごろには暗くなります。気温もだいぶ下がってきていて、朝と夜はもう息が白くなるほど冷え込んでいます。私の周りの先生や学生、ルームメイトも風邪をひいてしまっているので、体調管理には気を付けています。

授業だけでなく、北極圏の文化や歴史、生活様式について身をもって学び、正しい理解を身につけることを意識しながら残り数ヶ月、有意義な交換留学生活にしようと思います。今は、フィンランド人の友人がギリシャへ家族旅行に行っていて、その間2匹の猫の面倒を見て欲しいと頼まれたので、その子たちに癒されながらこの報告書を書いています。

